

松本市基幹相談支援センター会議・研修会報告

会議・研修会名 令和 8 年度第 3 回こども部会	開催日：令和 8 年 10 月 20 日（火） 時 間：10 時～12 時
参加者構成機関名 配布資料参照 (長野県相談支援専門員協会 相談支援従事者現任研修より参加者 3 名を含む)	計 14 名
次第 配布資料参照	

会議内容

1. 児童発達支援等事業所グループ報告

「保護者支援」をテーマに意見交換を行い、各事業所の取組や課題を共有した。

保護者がサービス利用に不安を感じていたものの、関係者による会議を通じて理解が深まった事例や、就学後も学校と連携して支援を継続している事例が紹介された。

事業所だけで対応を抱え込まず、保育園や幼稚園、相談支援専門員等と情報を共有し、連携して対応することの重要性が共有された。

また、18 歳以降のサービスについて知りたいという意見があり、成人期の支援に関する情報提供や学びの機会が必要であることが共有された。

2. 放課後等デイサービス事業所グループ報告

3 グループに分かれて中高生への切れ目のない支援をテーマに意見交換を行った。その中で、関係機関との連携や支援目標の共有が課題として挙げられ、本人、保護者、支援者が共通の方向性を持った実践の大切さが共有された。

また、18 歳以降を見据え、就労に関する説明会や事業所見学などの取組が紹介され、早期からの情報提供や支援者自身が成人期の障がい福祉サービスへの理解を深める必要性が共有された。一方で、小学校から中学校への移行に伴う学習面のニーズの変化への対応や、本人と保護者の意向の違いも課題として挙げられた。本人の意思を尊重し、自ら考え、課題を解決する力を育てる支援が重要であるとの意見があった。

3. シンポジウムについて

令和 8 年 12 月 7 日開催予定のシンポジウムについて、進行表に沿って内容や役割分担を確認した。当日は事例報告とシンポジウムを中心に構成した。参加者数は 12 月 2 日に確定する予定。

シンポジウムでは、各機関の取組だけでなく、関係機関をつなぐ役割や連携の実際を伝えることが重要との意見があった。そのため、療育コーディネーターも登壇し、「点」の支援から「面」

の支援への広がりが伝わる構成とする方向で確認した。

また、信州大学医学部付属病院の研究で作成された情報連携ツールについて、インクルーシブセンターの発表枠内で紹介する予定とした。

今後は登壇者との事前打合せを調整し、発表内容や資料の準備を進める。チラシについては、医療・教育関係者も対象であることが伝わるよう修正し、登壇者確定後に関係機関へ周知することとした。

4. Q-SACCS について(インクルーシブセンターより)

こども連絡会において2回目の作成作業を実施し、こども部会からも参加があったことが報告された。今回の取り組みでは、各機関の活動や地域の社会資源について理解を深めるとともに、異なる立場の支援者同士が顔の見える関係を築く機会となったことが共有された。

今後は、今回得られたつながりを実際の連携に生かし、行政と関係機関が協働して地域の支援体制を築いていくことが課題として挙げられた。第3回以降の開催は未定であり、進捗については引き続き部会で共有する。

5. その他

以下研修会等の案内をする。

- 長野県自立支援協議会 第3回療育部会(拡大会議)
令和8年11月11日(水)PM3時開催
- 松本市自立支援協議会 権利擁護部会主催事例検討会
令和8年11月5日(木)PM1時30分開催
- 松本市自立支援協議会 くらす・つながる地域部会主催シンポジウム
令和8年11月9日(月)PM2時開催
- 松本市自立支援協議会 しごと部会主催フォーラム
令和8年12月11日(金)PM2時開催

以上